

# メディカル翻訳の文体と専門知識



## ●プロフィール

小幡美恵子  
実務(医薬)翻訳家。メディカルライター。東京理科大学薬学部卒。外資系企業医薬品開発部勤務を経て独立。現在、新薬治験資料、科学ジャーナル誌記事などの翻訳を手がける。バベル・

メディカル翻訳講座担当講師。

globalization, borderless, cross-cultural communication, etc. … もう「世界はひとつ」です！ あらゆる雑多な情報が飛び交う 21 世紀、翻訳のニーズは衰えるところを知りません。では、メディカル翻訳の分野ではどの位のレベルであればそのニーズに応えることができるのでしょうか？

## 対 象となる読者は？

この分野では読者層が特定されています。例えば、新薬開発のための治験関連文書の場合は、承認を下す国の医薬品規制当局各部門のエキスパートがその対象となる読者です。また医学論文は専門家が同じ領域の専門家を対象に書くものです。翻訳者はこの読者の期待に応えるために、つまり彼らが出来ただけ短時間で必要な情報が得られるように訳文を作成しなければなりません。そのために先ずは、簡潔に表現すること、誤解を招く余地がない文章にすることが重要です。

## 論 理を追求する力

科学技術文書の場合、原文読解の段階で論旨の展開をつかむことが大切なのは言うまでもありません。予備知識、背景知識としての専門知識が充実していれば楽に理解できるでしょう。訳す際にもこれは当然必要です。が、専門知識を会得すること、専門用語を知ることは実は簡単です。調べればいいのです。しかし、文章を書くとなると技術の知識だけではカバーしきれない面も多々あるのです。そう、文章の論理を追求する力が必要です。

ソース言語、ターゲット言語それぞれの言語にそれぞれの論理があります。文章中論理が矛盾しては読み手に大きな負担を掛けてしまいます。ではここで読み手に負担を掛けない良い訳、reader-friendly translation のための注意点について具体例を挙げて述べてみましょう。

## R eader-friendly translation の条件

### (1) 因果関係の把握が大事

a rise in DHAA level with associated elevation in blood sugar

「血糖値上昇を伴う D H A A 値上昇」ではなく、「D H A A が上昇し、(その結果) 血糖値が上昇…」 こうすると体内での化学物質の変化、つまり生化学を訳者がきちんと理解していることが窺えます。論理の矛盾を避けるためにも因果関係の逆転はあってはならないことです。

### (2) 比較の対象を明確に

動物実験、臨床研究では正常例を対照 (control) として異常例と比較することが多いですが、状

態の異なる異常例と異常例を比較する場合もあります。読み手が混乱しないよう明確に表現しましょう。

### (3) 訳語を統一する

欧米の文章では言葉の連呼を避ける傾向があるようです。例えば、最初は rats と書いあるのに次に the animals として登場することがあります。訳文では断固としてラットで通すべきです。

### (4) 隠れた主語を読む

Patients were evaluated for A. 「患者はAについて評価された」ではなく「患者のAについて評価した」となります。評価したのは研究者すなわち筆者ですが、表舞台には現れません。このように主語のない文章も頻出します。

### (5) パラグラフ全体を捉える

ワンセンテンスだけを見ると非の打ちどころのない立派な文章であっても、パラグラフ全体のなかでは何ともチグハグで浮いてしまうことがあります。ひとつの流れの中での表現であることを忘れずに。「木を見て森を見ず」では困ります。

### (6) メッセージ性を重く受け止める

文章が長くなる場合、結論になかなかとり着かず、読み手がイライラ感を募らせてしまうようでは失格です。筆者が伝えたいことは何であるかを読み取り、これを先に出す方が賢明でしょう。

### (7) リアリティのある文章に

In Vitro Study: In a study of A by fibroblast, ... by fibroblast は「繊維芽細胞による」ではなく「繊維芽細胞を用いた」とすると臨場感が出てきます。生体内ではなく生体外(試験管内)= in vitro 実験というシチュエーションを念頭に入れておくと、自ずと「用いた」が付け加えられます。

### (8) 業界用語を察知する

医薬品業界ではadverse eventという用語に「有害事象」という定訳を当てています。臨床治験中に副作用が発生した場合、それが被験薬に依るものと特定できないうちはこの用語を用います。adverse reaction, adverse effect, side effect, etc. これらも文章のなかで使い分けるこだわりが欲しいです。

## 専門性を発揮するとき

医学系学会誌に投稿される論文の筆者は英語のネイティブとは限りません、また文筆家でもありません。世界のさまざまな国の医学研究者です。ですから、学校教育で英語を学んだ日本人はその英文に違和感を覚える場合もあります。その上、筆者と同じ専門性の高い研究をテーマとしている読み手を対象にしていますので、文章中ことばが記号化し、説明が省略されていることも多いのです。また、各ジャーナル誌の編集者は専門家ではないので、内容に立ち入ることはできません。従いまして、翻訳者はこの厄介な諸々をカバーする役目も担っていると認識しなければなりません。これを支えるのが専門知識の蓄積です。

## 最良の方策とは

日本の医学界には伝統というものが鎮座しています。循環器科、消化器科、呼吸器科、神経科、精神科、等々それぞれの領域に特有の慣用的な表現があります。これを知るためにも、また各科の概念をつかむため、そしてもちろん専門知識を習得するために日本語で書かれた医学文書を読むことをお勧めします。ターゲット言語で書かれた文書を読まずしてその言語で文章が書けるはずがありません。これが文体力を養う最良の方策です。ただ漠然としてではなく、かなり意識の目を持ってひたすら読んでみてはいかがでしょう。